



* · * · * · * · * · * · * · * · *



2月の園だより

学校法人 志賀学園
平第一幼稚園
令和4年1月31日

寒い中にも春の足音が聞こえてくるような今日この頃、お天気の良い日には、園庭に出てラジオ体操やかけっこ、外あそびなど、子ども達は元気に遊んでいます。

縄跳びをしているさくら・すみれ組の子どもたちを見ていますと、日に日に縄跳びが上手になり、もっともっと跳べるようになりたいと自分から進んで意欲的に取り組む姿が見られる中で、さくら組は26日、すみれ組は27日に縄跳び大会が行われました。さくら組の子どもたちは、すみれ組からの経験もあり、長い時間跳べる子、いろいろな跳び方ができる子、お友だちの跳んでいる回数を数えて教えてあげる子、自分の跳んでいる回数を数えながら跳んでいる子、普段は跳べるのに緊張から失敗をして悔しがる子などいろいろな姿が見られました。すみれ組の子どもたちは、縄の使い方を理解し、縄を回してジャンプを繰り返して跳べるようになった子、競い合うというよりも大会の雰囲気を感じながら跳ぶ子、跳べていた子は自己ベストを更新するなど頑張る姿が見られました。

2月3日は、節分です。「節分」には季節を分けるという意味があり、昔は、立春、立夏、立秋、立冬のそれぞれの前日を節分と言いました。そして、冬から季節が変わるこの時期は、新年を迎えると等しいくらい大事な時期とされ一年の始まりと考えられていました。そんな中で「新しい年も良い年になりますように！」と願い、また、季節の変わり目という事もあり体調を崩す人が多かったことから「邪気(鬼)を払う！」という意味合いを込め豆まきが始まったということです。豆まきの起源は今から1300年前、文武天皇の頃に日本の国に悪い病気が流行したうえ、米や麦や野菜などの農作物が実らなくて困ったことがありました。この時に天皇は、これまでの疾病の流行や農作物の不作は全て鬼のせいだと考え鬼を払う「追儺式」(ついなしき)を行ったそうです。数え年の分(年齢より一つ多く)、豆を食べると病気をしないとされています。豆には、穀物の霊が宿るとも言われており、栄養満点の炒った大豆を食べる習慣になっています。また、イワシの頭と柊の葉を豆がらの枝に刺して入口に飾る風習がありますが、これはイワシが臭いので鬼が嫌い、柊はとげがあるので鬼が恐れて家の中に入らないようにするためだと言われています。

また、2月11日の『建国記念の日』は、「日本書紀」に記された日本で最初の天皇といわれる神武天皇即位の日本の紀元の始まりとして、明治5年に「紀元節」という祝日が定められていました。昭和23年に廃止されましたが、「建国をしのび国を愛する心を養う日」として1966年(昭和41年)に「建国記念の日」と定められました。

一昨年の今頃から新型コロナウイルス感染症が流行し始め、そろそろ二年が過ぎようとしています。今年に入り、いわきでも急速に感染が拡大している兆しがありますが、子ども達がなるべく普通に生活ができるよう工夫しながら進めていきたいと思っています。

今年度も残すところ2ヶ月足らずとなりましたが、残り少ない日々を大切にしながら一年の締めくくりを行い、進級や進学への自信と期待を膨らませていきたいと思っています。

吉竹 芳江